

メディアが突然、自棄的に、ハンター・バイデン物語の真実を認める

ハンターのノート型パソコン物語は真実でした

<https://www.infowars.com/posts/videos-suddenly-the-media-desperately-wants-you-to-know-the-hunter-biden-laptop-story-is-real/>

Steve Watson

March 31, 2022

⇒なぜ？

これをフェイクのロシア偽情報計略と呼んだり、1年以上も完全に無視したりした後で、メディアが突然、自棄的になり、アメリカ人全体に対し、ハンター・バイデンの「地獄からきたパソコン」の物語は完全な真実だ、と言いだした。

なぜだろう？

ワシントン・ポストはこの話題を取り扱い、2020年10月にニューヨーク・ポストが最初に報道したこの文書は、「ジョー・バイデンが何十年もの公生活で築いた、いろんな関係から得た、彼の家族のやり方を例証するものだ」と認めた。

<https://www.washingtonpost.com/politics/2022/03/30/hunter-biden-china-laptop/>

その当時、ポストの「ファクトチェック係り」は、この暴露をニセ情報として一蹴し、「パソコン屑」だと言った。<https://thepostmillennial.com/head-fact-checker-for-wapo-dismisses-hunter-biden-corruption-scandal-as-laptop-stuff/>

今、ニューヨーク・タイムズもまた、完全に回れ右をし、この物語は真実でニセ情報ではないと認めている。

NYポストは、選挙前に、この全く同じ物を報じたために、社会メディアで検閲され、フェイク・ニュースという烙印を押されたことを、思い出すべきである。

<https://summit.news/2020/10/14/digital-civil-war-twitter-blocks-users-from-posting-link-to-new-york-post-biden-lobbying-story/>

Infowars や他の代替メディア・サイトによる暴露記事のすべては、「ニセ陰謀論」だと宣言された。

しかし ABC は今、この「地獄からのラップトップ」は本物だと言っている。

そして CBS ニュースもまた、地獄からのラップトップは本物だと言っている。

そして NBC ニュースは、この物語は本物だと言っている。

MSNBC もまた、それは本物だと言っている。

NCC でさえ今は、それは本物だと言っている。

あらゆるニュース・ネットワークが今、突如として完全にその調子を変えたのは、偶然の一致ではないであろう。

今、新しい「物語」が作成されているようだ。

[訳者 Greatchain 解説]

ここに言われていること——何かが急に、これまでとは完全に調子を変え、一斉に動き出したのは偶然の一致ではないということ——これを人は見逃してはならない。世界は単なる欲望によって、まるでダーウィンの進化論のように、唯物論的に動いているのではない。単なる心理学で説明することもできない。世界は霊的な戦い、魂の闘いとして動いている。ハンター・バイデンが悪事を働くのに、わざわざ記録を取り、証拠を残す必要がそもそもなかった。何ものかが働いて、このおそらく世界を変えてしまうような、バイデン家族の悪事を明るみに出させた、と考えるべきである。(彼がカメラの目を見ながら、おそらく 6-7 歳の女兒にペドフィリア行為を行っている映像を私も見た。)

アレックス・ジョンズのビデオで、Dr. Sherri Tenpenny の証言を聞いてみるとよい。これは今、出血熱ウイルスという新しい、治療のない流行病を用いて、グローバリストがジェノサイドを試みているという恐ろしい話だが、彼女はこれを我々の spirit と soul の次元の闘いだと言い、アレックスが完全に合意している。

<https://www.infowars.com/posts/dr-tenpenny-hemorrhagic-fever-virus-being-threatened-for-the-next-pandemic/>

また不思議な話としては、先日「朽ち木倒し」として紹介した、Covid-19 やワクチンの話をするキャスターに、引き続いて同じことが起こっている。

<https://www.infowars.com/posts/video-why-are-tv-presenters-across-the-world-collapsing/>

バイデンが、何の説明もなく4回目(?)のワクチンを受け、「私が高んでこの注射を、この舞台上で受けねばならないか、わからない」と正直に言っていた(NHKニュースでは注射の場面だけ)。

こうしたことは、ウクライナ戦争とも、ロシアのプーチンともつながっている。ニセ情報・プロパガンダというのは、もっぱらグローバリストの取る手段であり、その根本にあるのは「アメリカ例外主義」(アメリカだけに無法が許される)であって、プーチンは大胆にも、その傲慢なアメリカを潰そうとして、史上初めてこの惑星に現れた。グローバリストが人類に対して、霊的に挑戦しているとすれば、プーチンも、このアメリカに対して霊的に戦っている。したがって、あるニュース解説者が言っていたように、「プーチンがプロパガンダを行っている」ということはあり得ない。それは自己否定になる。ロシアにプーチン支持者が急増したのは、彼がプロパガンダを使わないからである。アメリカのように、ウソをついて人心を掴むことはできないことを、彼は知っているからである。民衆もこれを知っている。

ロシアのウクライナへの戦争を、「正当防衛」というだけでは十分でない。もっと根本的なアメリカの悪との戦いである。だからロシアには協力すべきであって、敵に回すのは本末転倒である。そうすることで破壊も少なく済み、最終的には北方領土も返ってくるだろう。アメリカは主権を踏みにじるが、プーチンは相互主権を重んずる。これは彼の言行録から明らかだ。

ウクライナでの戦争を志願した米退役兵が、キエフの戦争 犯罪を詳細に説明

ジハード戦闘兵、傭兵、テロリストが支配する

何千人もの外国籍者が「ロシア兵と戦うために」ウクライナに殺到している。これは2月の終わりから3月の初めにかけて、キエフが「国際部隊」の形成を通告した後に起こった。先週のロシア軍の推定によると、約6,600の外国人「傭兵とテロリスト」が、ウクライナで活動しており、彼らの集団は縮小しつつある、という。

「ナチズムは病気である」：ドンバスにやってきた テキサス人が教える

彼は民衆を保護し、8年間の戦争について真理を語るために来た

ウクライナ・ラボの生物兵器研究を共同運営している アメリカ人は誰々か？

現在進行中のウクライナでの特別作戦の中で、ロシア軍は、アメリカの運営する、この国の生物研究所が、危険な病原体の研究を行っていることを発見した。ワシントンは最初、その存在を否定しようとしたが、彼らは後にそれを確認した。しかしその研究所の活動は、特に注目すべきものではないと主張した。

[訳者 Greatchain 解説]

上の3つは、いずれも Sputnik International からの記事であるが、およその内容だけ紹介する。最初の、戦闘体験をもつ若い米兵数人が、ウクライナを助けようと義侠心から入国を志願した例も、2番目目の、元ウクライナ在住のテキサス人の場合も、共に、話に聞いたのと、現実が大違いだったという内容である。

元米兵らは、共闘どころか、最初から自分の命の危険を感じ、逃げるのが最も賢明と判断した。そこにいたのはウクライナ軍などでなく、傭兵やテロリスト、かつての中東のISISのような連中で、傭兵などは（口封じのために？）命を狙われた。

また、テキサス人のドンバス地区への協力者も、報道と違う実情を知って驚いた。その有様は、ダグラス・マクレガー退役大佐（彼を次期大統領に推す人もいる）が説明して

いた通りで、ロシア人種がいる地域は、ネオナチ・テロリストが「人間の壁」作戦を取る
るので、ロシア軍は「戸別訪問」の形を取らざるを得ず、そのために長い時間を要し、
ロシア軍の立ち往生のように見えた。

また、アメリカが隠れて運営する、生物・化学兵器研究所の協力者の、個人記録が、写
真や履歴書とともに、かなり詳しいリストになって載っており、ここにバイデン父子も
関与しているのであろう。これについてメディアは、今のところ無視し続けているが、
それはいよいよ兵器が使用され、広範囲な被害者が出たとき、「ロシアがやった！」とい
ち早く叫ぶための、準備作戦期間なのであろう。